

～夢と希望をはぐくむ県南の教育～



県南社教TIMES

第18号
令和2年2月27日

編集・発行 福島県教育庁県南教育事務所 板橋 竜男

令和元年度文部科学大臣表彰

西郷村地域学校協働本部……『地域学校協働活動に係る表彰』



佐藤 修氏
(地域コーディネーター)
穂積公男氏 鈴木英雄氏
(地域連携担当教職員) (西郷村教育委員会)

西郷村では、平成29年度より県のモデル地区として、3年間取り組んできました。主な活動としては、「学習支援活動」「地域活動・ボランティア活動」の二つの柱を中心に事業を展開してきました。

「学習支援活動」は、地域の方を指導者として、小学生対象に平日の「ステップ・フリー学習教室」、中学生対象の「土曜学習教室」を実施しました。「地域活動・ボランティア活動」は、地域のために何ができるかを考え、小学生が文化センターでの清掃活動を行い、中学生は各小学校の運動会の補助役員や村行事の係補助として活動しました。どちらも「地域のために貢献したい。」という想いが根底にあります。

地域連携担当教職員による学校と地域の協働連携体制のしくみも整っていますので、今後もモデル地区としてその成果を各市町村に広め、県南域内全体が地域学校協働活動を推進できるよう支援していきたいと思っております。



ステップ・フリー学習

今野 登志子 氏……『社会教育功労者表彰（家庭教育）』



今野 登志子 氏
(白河市社会教育委員)

平成14年に、子どもの自己肯定感を育むとともに、親子のより良い関係づくりを構築していくために、親や大人が心理学に基づくコミュニケーションスキルを学ぶ場として、「親業サークル“輝々(キラキラ)”」を立ち上げました。

以来18年間、会員とともに定期的な学習会や年1回の「夢のコラボ」を実施し、親子の関係改善や人間関係構築に有効なコミュニケーションスキルを磨くなど、行政とも連携しながら活動を進めてきました。また、昨年度からは白河中央中学校の家庭科の授業で、家庭の役割と子どもの関わりについて、外部講師として3年生の全クラスで指導してきました。

地域家庭育推進県南ブロック会議の委員としてもご活躍されており、今後も家庭教育推進のために連携を深めていきたいと思っております。



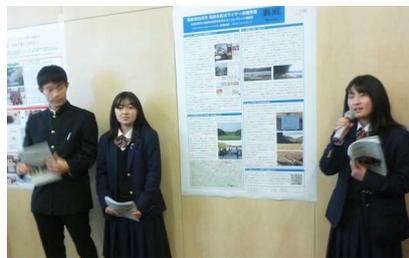
「夢のコラボ」
渡辺俊美氏の講演

「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

この事業は、復興に寄与する体験活動に取り組むことで、自ら考え、判断し、行動を起こす新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図ります。今年度は、県南域内の3つの団体が応募し、各地で活動しました。この事業は、補助率が80%と高く、県内の学校やPTA、各種団体等でも積極的に活用されていました。

未来の準備室(神戸市 1/11) 高校生防災ライター体験事業

「災害メモリアルアクションKOB E」に参加し、ポスター発表と取組内容の報告、パンフレットの配布を行いました。その後、NPO 法人プラスアーツを訪問し、防災教育の様々な取組の講話を聴きました。



はなわ探検隊(東京都 2/1) 特産のダリアで福島の元気をPR! 【埴町青少年育成町民会議】

小学生と高校生ボランティア27名が参加し、東京タワーと上野恩賜公園で国内外の観光客に向けて写真展示と絵ハガキ配布を行い、ダリアの町をアピールしました。



大信商工会(ひじりん館 2/2) 地域の素材と地域の子どもの体験活動を活かした商品づくり事業

戸田市と大信の子どもたちが交流し、「カヤの実を使った商品開発をしよう」というテーマで、食べてみたいお菓子とパッケージデザインづくりを行いました。



社会教育関係事業アラカルト

地域家庭教育推進県南ブロック会議(2/4)

域内の学識経験者、PTA連絡協議会、学校関係者、企業、各種団体、行政関係者の代表が集まり、今年度の家庭教育事業の成果と課題について話し合われました。

初めに、中島中学校長の渡邊泰昌氏から「親子の学び応援事業モデルPTA」の実践発表がありました。中島連合PTAの取り組みと、12月の講演会の内容や講演後の意見交換、事後アンケート結果による変容について、具体的なお話がありました。次に、今年度の成果と課題について教育事務所から説明し、各委員から感想や意見をいただきました。最後に、次年度の家庭教育の重点について協議しました。委員の皆様から今年度の教育事務所の取り組みについて、「今までになく格段進歩している。」「教育事務所や委員同士の連携がさらに深まり、大きな成果をあげている。」など、高い評価をいただきました。なお、今後の課題として次の点があげられました。

- 幼少期の自己肯定感の育成
- 様々な事情の保護者の受け皿の見える化
- 研修会等の周知と参加者の拡大
- 応援企業とのさらなる連携と研修会の実施
- 関係機関とのネットワークの強化による過程への支援
- 保護者の愛着形成

「家庭教育支援プログラム」は、今年度は団体等に講演会等の講師を紹介いたしました。(過去最高数) 今後も、積極的に活用できるよう、学校・PTA・各種団体等にもさらに周知していくことを確認しました。

※ 「家庭教育支援プログラム」は、PTA行事や家庭教育研修会などの講師を県南教育事務所で紹介するものです。次年度に向けて、親子の体験活動や学び講座などは非ご相談ください。(ちらしや申込書は、県南教育事務所HPに掲載しています。)



みらいく【模擬選挙】(2/4) <白河青年会議所>

白河第二小学校の6年生に、社会科の授業の一環として白河JCが講師を務め、選挙の学習を行いました。授業では、選挙のしくみを説明し、その後3名の候補者が演説をして、児童が自分の考えに近い候補者を投票用紙に記入して投票しました。実際の選挙で使用する記載台や投票箱も準備され、本番のような選挙の雰囲気味わいました。

白河JCでは、「つよたくキャンプ」「今から考えよう私の進路」「若竹発行」など、青少年教育や学校教育に対して、深いご理解とご協力をいただいています。



地域連携担当教職員会議(2/25)

<鮫川村教育委員会>

来年度から、村内で地域連携担当教職員が中心となって、学校支援活動がスムーズに実施できるよう、小・中学校の管理職と担当教員及び教育委員会事務局が集まり、情報交換や今後の進め方などについて協議をしました。教育事務所の担当も出席し、他市町村の実施状況からポイントとなる点を説明し、初めから無理せずにとりかざり進めようというアドバイスをしました。



“ひがししらかわ” 輝くふる郷体験事業

過疎・中山間地域連携事業の一環として、東白川郡内全小学校で実施しています。地域の人材を活用した体験活動を通して、地域のよさを再発見して、次代を担う人材を育成します。

子どもたちは、この事業を通して地域の伝統文化や産業を知り、地域の方々との交流を深めることができました。やはり、本物に触れたり体験したりすることは大切で、各学校の先生方からも高い評価をいただいています。この事業は、次年度も継続して実施される予定です。



御田植祭踊り(1/30)【近津小学校】

郷土史クラブの児童が、地域の伝統行事に参加し、日頃の練習の成果を披露しました。これからの時代は、この祭のような地域と学校の協働連携が求められています。

こんにやく学習の発表会(2/13)【笹原小学校】

1年間ご指導いただいた地域の方を招待して、5年生が班ごとに、こんにやくの育て方・作り方・料理・歴史・種類のテーマについて、わかりやすく発表しました。